

事故4年 やっと娘との時間

浜松市の浜名湖で二〇一〇年六月、野外活動中のボートが転覆した事故で、娘＝当時（二）＝を失った愛知県豊橋市の西野光美さんが絵本を出版した。題名は娘の花菜さんが事故前日に書き残したメッセージ「夢があるっていい」。事故から四年余。真相解明や訴訟で慌ただしく過ぎた。「やっと娘のためだけを考えて作ることができた」と語る。（豊橋総局・小椋由紀子）

事故の数日後、帰ってき 繰り返してきた。花菜さんは、花菜さんの水色の かばんだだけだった。中にあった野外活動のしおりに、花菜さんの「夢」が書かれていた。「私の将来の夢は医者だ。私はたよられる医者になりたいな」と思った。夢があるっていい」

その夢は、母のためだった。光美さんは十年ほど前に難病を患い、入退院をや市議会への請願、豊橋市

さんを絵本に
光美さんの
花菜さんの
夢を
西野光美さんが
娘の書いた
絵本に
豊橋市で



浜名湖ボート転覆
事故 浜松市北区の
浜名湖で2010年6月、
野外活動中だった豊橋市章
南中学の1年生18人と教諭
2人が乗った手こぎボート
が悪天候で操船不能にな
り、モーターボートでえい
航中に転覆。全員が湖に投
げ出され、ひっくり返った

浜名湖ボート転覆 遺族、思い出を絵本に

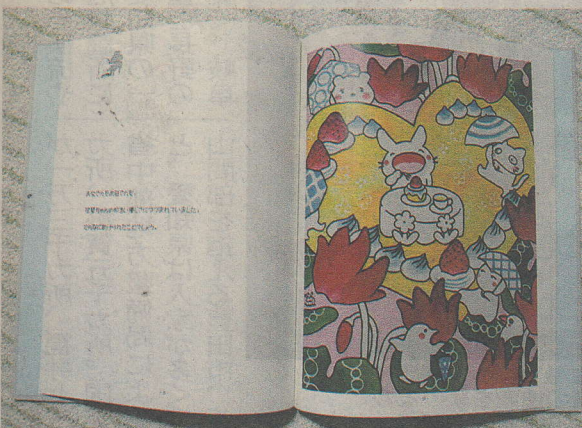
を相手にした訴訟に追われた。「ようやく自分の時間がとれるよう」になり、花菜さんが残したものを、小さな子にも分かるよう絵本にしたいと思った。

昨年末から構想を温め、事故後、花菜さんに絵を送ってくれたイラストレーターに作画を依頼。花菜さんの思い出や事故のこと、父と母からの思いを二十四ページにつづり、かわいらしい絵を選んだ。光美さんは「悲惨な事故で花菜は怖い思いもいっぱいした。娘のために明るい、優しい絵本にしたかった」と話す。

百部を印刷。図書館など市内の教育施設に置いてもらい、引率した教諭たちにも配るつもりだ。「花菜が残したメッセージを忘れないでほしい。それが結果的に風化防止になる」

船体内側に閉じ込められた西野花菜さんが溺れて死亡した。両親は12年5月、豊橋市などに損害賠償を求めて提訴。10月に和解が成立し、市長が両親に謝罪した。

静岡県警は13年2月に業務上過失致死容疑で、章南中の校長ら6人を書類送検。静岡地検が捜査している。



亡き娘に捧げる絵本

浜松市の浜名湖で2010年6月、野外実習中のボート転覆事故で亡くなった豊橋市立章南中学校の西野花菜さん(当時12)の両親が、娘との思い出をつづった絵本を出版した。題名は、花菜さんが事故前夜に書き残した言葉「夢があるといい」。事故から4年余、再発防止を訴え続けてきた母親の光美さんは「やっと娘と向き合つことができ、花菜が喜ぶ絵本にしたかった」と話す。

物語は、難病を患い、足が不自由な「お母さん」を明るく支えていた「花菜ちゃん」の乗ったボートが、嵐で海に沈んでしまう。残された水色のカバンを開けると、花菜ちゃんが描いた絵と、「人を助ける医者になりたい」という将来の夢が書かれたしおりがみつかる。「お父さんとお母さんは最期まで、花菜ちゃんの優しさにつつまれていたのでした」と締めくくられている。

難病の母を看病

光美さんは、10年ほど前

浜名湖ボート事故で犠牲

豊橋の両親「やっと向き合えた」

に難病を患い、入退院を繰り返している。花菜さんは、入院中の光美さんに付き添い、懸命に看病していたという。花菜さんは、幼い頃からピアノやバイオリンなどを習い、将来は「音楽を教える人になりたい」と話していた。

つづっている。光美さんは「全然、知らなかった」。父親の友章さんは「病気の母親を助けたかったのだと思う」と振り返る。友章さんと光美さんは、事故後、原因究明や再発防止を願い、署名集めや豊橋市を相手にした訴訟などに追われ、忙しい日々を送ってきた。

昨年12月、少しずつ自分たちの時間を持つことができるようになり、ずっと温めていた絵本づくりを始め。事故の悲しさや再発防止を訴えるのではなく、花菜さんの優しさや無邪気さを、小さな子どもにも分かるよう、24ページの絵本に表現した。

支援に感謝して

挿絵は、事故後に絵を届けてくれた刈谷市在住のイラストレーター久保田裕美さんが担当した。花菜さんが大好きだったピアノやバイオリンがあしらわれ、かわいがっていた手乗り文鳥「ブルー」が、絵の中に隠れる仕掛けが施されている。

8月初めに退院し、絵本を手にした光美さんは「明るく、優しい絵本ができた。いつまでも花菜が残したメッセージを忘れないでほしい」。友章さんは「死んでしまうと夢はかなわなくなる。だからこそ、悲しい事故は防がなくてはいい」と話す。

花菜さんの思い出をつづった絵本を手にする父親の西野友章さん(豊橋市杉山町)



絵本は100冊つくった。これまで支えてくれた人たちへの感謝の気持ちと、「夢に向かって進んでほしい」との願いを込めて届けている。また、図書館など豊橋市内の教育施設にも置いてもらえるよう要請したほか、野外実習に引率した教師にも読んでもらうという。

(松永佳伸)